

新ごみ焼却施設基本計画に関する報告会（概要）（案）

- 1 **開催日時** 平成 27 年 8 月 25 日（火）19 時 00 分から 21 時 05 分まで
- 2 **開催場所** 鎌倉生涯学習センターホール
- 3 **出席者** 松尾市長、小林副市長、石井環境部長
- 4 **事務局** 遠藤環境部次長、小池環境部次長、近藤環境施設課長、齋藤環境施設課課長補佐、大宮環境センター担当課長補佐、森田環境センター担当課長補佐、剣持環境センター担当係長、花田環境施設課環境施設担当
- 5 **出席者** 22 名
- 6 **内容**
新ごみ焼却施設建設候補地選定結果について
- 7 **配付資料**
鎌倉市新ごみ焼却施設の整備について及び新ごみ焼却施設の施設整備について
(当日使用したパワーポイントと同様なもの)

8 説明会概要

松尾市長から「鎌倉市新ごみ焼却施設の整備について」の説明を行い、その後、石井環境部長から「鎌倉市ごみ焼却施設基本計画」に対する意見聴取の内容と施設整備の方針等の報告を行った後、参加市民から意見をいただき、その内容については次のとおりです。

市民 山崎の近くに住んでいます。私の知る限りでは、平成 28 年には山崎の跡地にはバイオマスエネルギー回収施設としての処理場が建設の予定と聞いて期待していましたが、その計画が無くなって、その後、どういう計画になるかということをおなりに待っていましたが、その方向性があまり打ち出されないまま私の印象としては、この焼却炉の話というのは突然、市民に提案されて突然決まったような印象を受けています。一つ質問したいのは、なぜ、バイオマスエネルギー回収施設がこの 2 炉の焼却施設に転換されたのかということを知りたいのと、一市民として勉強不足なところがあるので、もう少し市民に分かりやすい形でも今後の計画についても説明を頂きたいということと、とても大切な計画なので幅広く市民からの意見を聴取できるような機会を、選挙とまでは言わないけれど何か広く市民から意見を聞ける場を設けて頂くことができないのか、それを質問させて頂きたい。

市長 バイオマスエネルギー回収施設の計画の方針が変更したことで、鎌倉市が三浦半島において生ごみの処理をするという、そういう役割が、鎌倉市と逗子市だけになり、その他の市とは別になってしまい、その結果、鎌倉市が生ごみの施設、逗子市は焼却施設という計画として継続してきました。市としても、この生ごみを処理するバイオマスエネルギー回収施設を造っていかうとしたきたわけですが、逗子市で鎌倉市の焼却ごみを全量受け入れられないということになり、鎌倉市の焼却ごみを何とかしなければならぬという状況になりました。そうなりますと、仮に鎌倉市が生ごみのバイオマスエネルギー回収施設を造ったとしても、新たな焼却施設、名越と今泉に代わる焼却施設を造っていかねばいけないということになりましたが、今の鎌倉市の状況から、二つ

のごみ処理施設を連続して造っていくというのは非常に難しいというふうに考えているところです。当時、方針転換をさせていただいた時には、全体の費用負担の面と、生ごみのバイオマスエネルギー回収施設自体の施設が日本全国の中でまだまだ十分に安定的に稼働している事例が少ないということを経験として方針転換をさせていただきました。もう一つ、住民投票とか民意を諮る、民意に問うということですが、今、この場所で良いか、悪いかという住民投票をやるということは考えていませんが、今後当然、私が市長としての選挙というところは一つあります。さらには、議会の中での賛成反対ということが当然ありますので、今後、議会でお諮りしていただく中では、施設についての賛成、反対という意見は出て来るだろうと思っています。また、住民の皆さんのご意見・ご要望につきましては、広く皆さんとこうした説明会も含めて開催させていただき、意見として受け止めさせていただきたいと考えています。

市民 ありがとうございます。もう一つお聞きしたいのですが、焼却炉で実際どういったものを焼くのかということ、それを焼くことによってどれだけのバイオマスが出て来るとか、そういったところもしっかりと市民の方に教えて頂きたいと思います。よろしくをお願いします。

部長 基本的に何を焼却して、何を資源化していくのかということにつきましては、現在のスタイルと変わらないと考えています。基本的には、これまでの資源化は引き続き資源化を行ない、対応していくことを考えています。ただし一部、例えば、製品プラスチックについては、現在は資源化をしていますけれども、費用対効果ですとか、環境面ということを見ると、今後の技術革新も含めた中で、慎重に対応する必要があるだろうと思っています。将来的に、これらは資源化した方が良いのか、焼却した方が良いのか、検討するという事になっていきます。さらに現在、布団、畳も資源化をしています。これらについては、焼却の方が費用対効果・環境面から良いのではないかと。ということで、基本的に先ほどの3万トンということで考えていると申し上げました。基本的には、今と変わらないですけれども、一部は、環境面、費用対効果などから、焼却した方が良いと思われる物については、焼却する可能性があると考えているところです。ただ、いずれにしても、これまでの減量・資源化を継続していくことを考えています。

市民 お聞きしたいのは、場所が確定してしまったのかというのがよく分からないのですけれども、今お話を聞いていると確定してしまったというようになっているのですけれども、すいません、本人としては決まっていなかったのだらうと思っただけですけれども、まずそれが一点と、他の課の方も連れて来て下さいと以前、確か玉縄に来たとき、皆さんに言ったのですけれども、ここでお話しても公園課の話とか分からないとか、他の課のことだから責任者がいない、お聞きする時にうちの課じゃないからわからないということがあってはいけないと思うので、それは今までいわれている事なので、連れて来られていると思うんですけれども、まずそれと、このあいだ、土地を決めるところで、安定性というので30年、40年後には建て替えを考えるのか考えないのか。今、この問題が出ているのも、40年前に建て替えを考えていなかったからだと思うので、それを何故、先延ばしにしているのかもわからない。どうしてなのかということも適切な説明がされていない。話されているのですけれども、今の技術でどれくらいのこと出来るかという説明もなく、技術革新に逃げている。30年後のこと何故それを考えないのか。防災に関しても一緒に考えれば、一箇所に固まると何かあった時に、今、説明されている処理はできないのではないかと。

市長 まず、確定したのかということですが、方針として決定しているという状況です。今後、行政内部の手続きとしては、行政計画に位置付けしていく事務手続きがあり、さらに今後、このごみ焼却施設を造るための予算化があります。その予算が議会で可決されるか、されないかが、もう一つの

ステップになると思います。そうした意味で、一つひとつをクリアしていくことで、この計画が進められていくということになります。安定性ということですが30年、今から見れば40年後どうするのかということですが、確かに40年後も含めて、さらにそこから先も安定的にずっと処理出来るということを示すのも一つの考え方だと思います。今回もちろん、そのことも必要だと思いますけれども、鎌倉市として、10年後に迫った新たなごみの焼却施設を建設し、確実に安定的な稼働をしていくために、今回、鎌倉市の中で、焼却施設を造るだけの土地がとても限られているという条件の中で選ばせていただいたということで、40年後のさらにその先の安定というところは、確かに担保されていないという計画にはなりません。そこは率直に申し上げさせていただきたい。

部長 リスク分散、集約、どちらが良いのか、これはいろいろ議論があるだろうと思っています。おっしゃるようにリスクを分散して何かあった時にきちっと対応できるように、こういった考え方は当然ありますし、あるいは集約することによって効率的に対応できる、当然、その場合のリスク管理はしっかりして行かなくてはならないというふうに考えています。元々、7万トンのごみを焼却するために二つの施設で焼却をしていました。今、ごみの減量・資源化によって焼却量を3万トン、今は3万7千トンくらいですけども、これを3万トンまで減量して、一つの焼却施設で対応していきましようということになっています。当然、リスク管理も必要になってきます。これについては、当然、逗子市ですとか、他市の部分でリスク管理ということで、何かあった場合の相互対応というものについてはきちっと対応する、こういう形で今は考えているということです。いずれにしても両方の考え方があるというふうに思います。今は一つに集約することによるリスク管理を他市とも並行しながら考えて行く、こういった考え方です。

市民 私は山崎の近隣者です。さっき説明があったスクリーンであった地元住民の方からの主な意見、この意見は変わりませんから。それから皆さんに聞いていただきたいのですが、山崎は、今の状態では、まだ選定です。決定ではありませんね。

市長 方針を決定したということです。

市民 方針を決定したのですね。今、山崎に造るという形にして発表されたので、ちょっと残念ですけども。皆さん、10項目を説明しますので聞いてください。山崎には汚水浄化センターと七里から持ってくる汚泥焼却センター2箇所を抱えています。それから、鎌倉の新しい焼却施設の話がありましたが、用地検討委員会で山崎に選ばれたのですけれども、山崎の代表者とか自治会の者とかが呼ばれておりません。勝手に山崎が候補地に上がったと思います。何故、山崎は2箇の施設を受け入れているのにもかかわらず、何で新しい焼却施設を受け入れなきゃいけないのか納得がいかない。それから市長との話し合いの中、勝手に、山崎に決められた後に説明会があったのは、ここには驚いた。浄化槽に、ごみ焼却建設は法律違反であります。市は、山崎に汚水施設と生ごみ焼却施設を造れば連携相乗効果、災害時に電力ですとか停止が防げると、焼却を造れば、それで色々な電気とか熱を利用して大災害時にも防げるということだけでも、震度7クラスだったら、あそこは田んぼを埋めた土地なのですごく振動する。全滅となるので考えなきゃいけないと思う。浄化槽の所に生ごみ焼却炉を造るのは法律上違反なのです。もし、建設をするのならば、焼却場を造るのにもう一箇所入口が必要になる。建設するところに国に8億円返せば、今の狭い入口に160台のパッカー一車を入れても法律的にOKが出る。それで深沢に焼却場を造らないで山崎に造れば、石井環境部長が言いました国鉄の引き込み線を使わせる、というようなことを聞いています。僕はどうしても生活していく以上、生活の一部だと思う。17万4,000人の人たちと観光客のごみを山崎に持つてくるとするのはどうしても納得がいかない。松尾市長がどこへ持っていっても、いろいろな問題がある

といったけど、山崎は他所と違う。深沢でも野村でも新たにこれから開発して造るという所なのだけど、僕は何十年間もあそこで苦痛に悩まされて、今も悩まされているのだけれど、それを知っていて持ってくるって、ずいぶん卑怯なやり方じゃありませんか。皆さん、誰が自分のそばに迷惑施設が来て笑っていられますか。深沢に 17 階、30m のマンション造って 3,000 人の人を呼ぶって、そのごみとか、そういうもの全部を山崎に、うんちとか全部山崎に来て、山崎に出来たからいいのだ、そんな考えでいいのですか。皆さん、ちょっと少し平等に考えてみてください。それだけです。ありがとうございます。

市長 ありがとうございます。お話の中でいくつか、お話しておいた方がよいかと思う点があります。国鉄の引き込み線を活用するということが深沢でなければ活用させるという話は、私は一切存じ上げませんし、JR としてもそんなことは一切話をされていないので、何か噂の類の話だろうと思います。我々としては、パッカー車についてはあの場所に置くというよりもパッカー車をそれぞれの地域に置いて、山崎には置かないという計画の中で、現在、検討をさせていただいているところです。山崎の施設の直近にお住まいでこれまで大変ご苦勞をおかけしてきたというのは、私もお話をお伺いしておりますし、決して、そのことを無視して決定したということではございません。では、なぜかというご意見は、しっかり受け止めさせていただきたいと思います。これまでご迷惑をおかけして、今後そうした意味ではご迷惑をおかけしない形で進めていくことにつきまして、最大限の配慮をさせていただきたいと思っておりますし、その間、お約束させていただくことにつきましては、必ずそれを実現するというので進めて参りたいと考えております。なかなか、ご理解をいただくのは本当に難しいと思っておりますけれども、我々としては最大限、これまで対応できなかった部分も含めまして、しっかり対応させていただきたいと思っております。

市民 山崎浄化センターのすぐ近くの山崎西町内会の●●と申します。この、去年の 11 月の説明会、今年 5 月の市長の説明、いろいろお聞きしました。一つ残念なのは今日、これだけの人しか集まらず非常に重大な、それぞれ温度差はあると思うのですけれど、去年 11 月の玉縄行政センターの説明会でも 10 人ぐらいしか集まらない。その時申し上げたが、市の広報活動がちょっと温いんじゃないか。今、松尾市長をはじめ、皆さんのご理解を得たい、誠心誠意対処するとおっしゃっているがそういう姿勢が徹底されていないのではないか。非常に重要な問題なのだけれど、一応、市としてはこういう言葉は悪いが、セレモニーを経てやることをやったとアライバイ作りにしか思えない。それとこのあいだ、私どもは去年の 11 月の市議会に陳情書、市長に要望書を出した。さきほどおっしゃったけれど、負担を我々は何十年間背負っていかなければならない。それを市長は、わかりました。これから真摯に対応しますとおっしゃたが、それは言葉だけにしか聞こえない。どれだけの苦しみだとか、どれだけの被害というのを実際に感じ取ることはできないのではないか。その時に被害、負担の公平性・負担の平等性を我々は訴えた。何で浄化センター、先ほど言いましたが七里ガ浜の浄化センターの統合の道も想定されているわけでしょう。浄化センターの全て、鎌倉市全体のごみの処理もここでしょうと、考えたのですね。同じ鎌倉市民で、何で我々だけ、先ほどから市民の皆さん、市民の皆さんとおっしゃっているが市民ではない、地域住民です。負担を蒙っているのは。何故、地域住民が二重も三重も背負わなきゃいけないのですか。迷惑施設ではない、地域の皆さんに喜んでもらえるような施設にしたい、そうおっしゃる。浄化センターを造った時に、鎌倉武道館を造ったじゃないかというようなこともおっしゃたが、地域住民にとってあそこは優先的に利用できる施設ではない。負担だけ背負わされてそこから得るような利便だとか、地域住民は受けていない。口だけでおいしいことを言いますけれど、負担の公平性・平等性というのは全く無視

されている。このあいだ、市長は我々の声に対してそれを第二義だ。第一義に考えるのは、大災害時のエネルギー、共有化が第一義だ、そういうふうにおっしゃった。本当にそうですか。そこをもう一度検討しなければいけないと思う。本当にそれが第一義なのですか。先ほど、こちらの方もおっしゃっていたけれどリスクの分散化も必要なのではないか。どうもその辺の説得力が全くありません。それと今日見てびっくりしたのは、頂いた資料、6ページ目の施設のイメージ図、今日初めて私たちは見ました。こうなるのだ、そうすると例えば、地域住民の方がご覧になったか、煙突がこれだけ高いと柏尾川は、本当に、目と鼻の先ですね。大船植物園だって、フラワーセンターの近くに最近、市長はご存じないだろうけれど、養護施設、老人ホームが出来た。その隣に保育園も出きる。目と鼻の先ですよ。それで、そういう、住民がそういう施設がいっぱいできている中で、こういうもの造っていいのか。10年先にはもっとあそこは人口密集度高くなる。10年先のことを考えて想定をして、交通量だってそうですよ。現時点の交通量ですとか出てないじゃないですか。調査をするとおっしゃったけれど。こういう施設のイメージ図があつて今日初めて見ました。多分、こういうものが建つのだろうと思いましたが、これを地域住民の方が見たら一層反発しますよ。5月の説明会があつた時に近隣地域の自治会とか町内会の方が出ていたのですけれど、私たちは何回か討議を重ねまして、近日中に反対同盟を結成します。結成すると思います。それで、我々地域住民の言っていることが無茶なことを言っているのか、それは理路整然と皆さんに訴えていきたいと思ひます。ですので、簡単に今日、びっくりしたのはこれしか集まらないのは皆さん忙しい、ウィークデイの午後7時半、時間設定問題があるかもしれない。これをどう受け止めるのか。無関心なのか。真剣に考えて頂きたい。もうちょっと、市長、負担の公平性・平等性真剣に考えてください。あそこに住む地域住民が今までなめていた辛苦、それが30年、40年先も続くわけです。それを我慢しろ、納得させるようなことができますか。これくらいの覚悟がありますか。僕はそれを真剣に本当に真剣に考えて、僕たちだけの問題じゃなく子ども、孫、ひ孫、安倍さんがおっしゃったじゃないですか。謝ることは、ひ孫とか孫の世代に負わせてはいけません。そのとおりです。負担なのです。いくらおいしいことを言った施設でも。地域住民の皆さんに愛される施設を造りたい。だったらどこへ持って行いったっていいじゃない。何で山崎だけなのですか。今まで我々は負担を強いられてきた。市長は一生懸命頑張るとおっしゃった。立場上そうでしょう。でも、信じません。たぶん誰も。やる、やると言った約束を努力するとか検討するとか。スポーツ施設をあそこの屋上に造る、市長はあの屋上に登られたことがありますか。ないでしょう。あんなところにスポーツ施設を造れるわけがないじゃないですか。もうかなり老朽化して屋上ベコベコになっている。そんな所に、危ない所にスポーツ施設を造るなんて、思いつきでおっしゃっては困るのですよ。とにかく、我々は負担の公平性、負担の平等性、それとあそこは狭いのですよ。施設の土地として。それから地盤も軟弱だ。先ほどの柏尾川、津波が襲ってこないだろうと、想定外のことが起こるじゃないか。ですから、最終候補として挙げられたということは理解します。でも、そこはもう一度、一から考えて市民一人ひとりのため、地域住民のため、やはり我々は鎌倉市民であると同時に日本国民の一人です。何故一人ひとりが平等でないのですか。負担の平等それをもう一度問うてください、以上。

市長 ありがとうございます。いろいろ多岐にわたってご指摘をいただきました。今回参加者が大変少ないということですが、決して、アリバイ作りで説明会をやるというつもりは全くございません。地域の住民の方々の説明会につきましては多くの方に参加いただきまして、たくさん貴重なご意見いただいたところです。我々としましては、より多くのご意見を伺うということは当然、

必要なことでありますから、今後、広報の仕方等につきましてはより一層の工夫をして参りたいと考えています。それから細かいことで言いますと、施設のイメージ図につきましては、5月の説明会でも同じ図を示して説明させて頂きました。その時の説明が足りなかったのかもしれませんが。決して本日、急に出したのではないということをご理解いただきたいと思います。

市民 すみません、間違いがあるといけないので確認させて頂きますけれども、6ページ目にあります施設のイメージ図ということで3つのちょうどこの下水道の所は平らになってと思うのですけれども、立体図ですよ。

市長 5月の資料はお渡しするというので、ひょっとしたら我々がお渡しした資料のページが抜けていたということがあるかもしれませんし、そこは確認をさせていただければと思います。

もう一度、我々も再確認をさせていただきますけれども、今、我々が持っている手元の資料では、当日お渡しした資料、パワーポイントでもご説明したということは、私もしっかり覚えていますので、もう一度そこはお話させていただければと思います。

それから下水道の上部利用、スポーツ施設ということで、今回思いつきで我々が提案をしているということでは決してありません。これまで下水道施設の協議会等の中で住民の皆さんから出された意見ということで、それが長年実現してこなかったということについては、ご指摘のとおりでございまして、そこを我々としてはきちっと造っていくということで今年度予算を計上させて頂いたということですが、近隣の皆さんが、そんなことをする必要はないというご意見であればそこはきちっと受け止めさせていただきながら少し話をさせていただいて進めていきたいと思えます。

最終的には負担の公平性という所で皆さんのお気持ちは一番そこにあると考えます。確かにこうした施設が迷惑施設じゃないというならば、どこだっていいじゃないかというご指摘でした。迷惑施設じゃないものを造っていききたいということで、我々として重要なポイントとしていますのは、今回の焼却施設と下水道施設でのエネルギーの有効活用というところを最重点ポイントとして考えさせていただき、今回の決定をさせていただきました。そうした意味で分散ではなく集約ということになってしまったということではご指摘の点、受け止めさせていただきたいと思えますけれども、我々としては鎌倉市全市の中でこうした施設を造っていく中で、山崎という判断をさせて頂いたのは、今、申し上げた理由でございまして、ご理解をいただけたらありがたいと思っております。1番、2番、3番という順位をつけるということよりも、もちろん、地元の方のご負担というところは全く気にしないで決めているということではございません。施設近隣の皆様に対しましては、今後、迷惑をかけない形で慎重に進めていきたいという思いでございまして。

市民 私は近隣住民じゃないですが、深沢地区に住んでいますので、深沢は4地区に候補地が絞られたという説明を深沢支所のホールで聞きました。その時に、何で深沢だけに4箇所決めたのかというのでとても疑問に思って質問したのを覚えています。その後、ごみ有料化の問題についてすごく疑問に思っているもので、有料化について考え直してほしいという運動も起しているもので、それに関連するピラを作って鎌倉駅で撒いたことがあります。その時に、そのチラシを見た鎌倉駅を使う人たちは、「あー山崎に決まった、良かったね」という反応なのです。つまり、鎌倉駅を使うあの周辺の方は深沢地区に決まることや山崎地区に決まることは他人事なのですね。さっきの方がこの今日の日にとか時間とか場所とか人が集まらなかったのは、市の広報のせいだと言われましたが、それは実はそうじゃなくて、どんなに広報したところで、もう他人事の問題になっちゃっている。それは市長としてすごく考えなきゃいけない問題だと思う。つまり、この焼却炉をどうするか

ってという問題は、もっと市民全体で考えて行かなきゃいけない問題だし、リスクは皆で引き受けなきゃいけない問題だと思うのです。こんなに辛いと、こんなに苦しいと言っている人を何故そうやって無視してこういうふうに決定できるという、それが全然わからない。私は寺分に住んでいますが、JRの跡地に来ることについては、周りの人たちは来たら、迷惑施設じゃなくて温浴施設も出きるのだから、来たら面白いわよね、っていう反応だったのです、私の近くの人。あそこは近隣住民がいないのですよ。広大な空き地で。あそこに建つことによって今辛いっていう人は、あそこにはまだ住んでいないのですよ。それから、もう一つの候補地、野村のあの森の中だから、あそこに建ったからといって、今すごく辛い人はいないのですよ、周りの人は、森があるだけで。どうしてそれをあそこに決めないで今苦しくて嫌でたまらない、今、話を聞いて気の毒だし可哀想だし、自分がそうだったらどんなに嫌だろうって、今話を聞いていたのですけど、こんなに嫌だっていう人がいるのに、そして、さっきの話ではリスクを分散させるのにもそれなりのメリット、集約することについてもそれなりのメリットとデメリットがあるという話をされたのだったら、何故そこに住んでいる人が辛くてたまらないということを第一にしないのですか。それがどうしても納得いかない。そして、武道館での説明会にも出たのですけれど、あの時は近隣の町内会でない人は出席しないでくれといわれて一回断られたのですが、山崎西町内会の方が是非他の方にも聞いてもらいたいから、参加してくれていわれて、発言はしないけどっていうことで、あそこでの話を聞いたのです。その中で、あそこは、大体最初、説明会が始まる時は、最終候補地だということが始まったのです。そして、その後、あそこで市長が話をしたから、もうあそこは決定したと話が変わったのです。でも、私の感じではあそこでは皆がすごく嫌だといっていたのですよ、住民の人は。もう、こんなことではたまらないと。止めてもらいたいと本当に近所の人たちはみんなそういう風について、あそこでもいいっていう人は一人もいなかった。で、その説明会の中で、説明したらもう決定地になっちゃうという、それは変じゃないですか。話を受け止めると、さっき言われましたけれど、受け止めるというのはどういうことなのか。話を受け止めるっていうのは、聞きおくよってそれだけのことなのか。受け止めてどうやってその問題を解決して近隣住民の人が納得できるような、近隣住民の人がこれから幸せに生きていけるような解決方法考えてくれるのですか。それを考えることが受け止めるっていうことでしょうか。でも、受け止める、受け止めるっていいながら、決めた、決めたといわれて、その先を全然説明しないっていうのは話が変わらないですか。そういうふうに思いますから、ちょっとお返事をいただきたい。

市長 ありがとうございます。決定をしたというのは市としての方針を決定したということで、5月当時と今と、そこは、行政内部としての状況は変わっておりません。今後、先ほど申し上げましたとおり、行政計画として位置付けていくことや、議会として予算の議決をいただくことが、今後、話しを先に進めていく中でのそれぞれの過程というか、一つひとつを決定していくということになります。

受け止めるということの意味ですが、5月の説明会では、今でも臭いがすること、振動があるという話をされている方がいらっしゃいました。そういう意味では、今もし、そういうことが現実に起こっているのであれば、それはすぐにも我々としては解決しなければならない課題だということを受け止めます。それに対して何をすればよいかということをおぼろげに我々はやっていくということが受け止めて実行するということです。それは、そうした方向できちっと対応していくということでございます。

市民 私は植木に住んでいるものです。皆さま方からのお話を聞いていますと、迷惑施設だとかいう話

が飛び交っていますが、果たしてそうであろうかというのが私の素朴な疑問です。というのは、今は、武道館の周りに何軒新しい家が出ていますか。わざわざそういう迷惑施設の所に近寄り建てるという人が何人いらっしゃるのか。というのをまずお調べになった方がよろしいのではないかと思います。私はそう思います。（先に発言した方の）話は重々分かっています。これは大変だろうと。だけれども、問題は、ごみをいかにして焼却するかということでありまして、皆さん子どもから大人まで老人まで出すわけです。みんなが負担しなければならないわけです。公平性と言っても難しいです。これは。例えば、フラワーセンターがある、あれはプラスですか、マイナスですかという話です。線路はどうですか、という話です。柏尾川はどうですか。そんなの一概にはいえません。平等とかいうのは、私は言えないわけです。何が平等だと。私は、それよりも早く焼却場を造って便利にしてもらいたい、という方をお願いします。そのためには個別対策とかいろいろあると思いますけれども、17万人の市民を安心して生活できるということをしていただくためには、私は個人的には10年とはいわず、5年ぐらいでやっていただきたいというのが本心です。皆さま方いろいろおっしゃるけれど、今泉とか名越は、今までどうだったのかと、誰のごみを焼いていたのかという話になるわけです。住民が協議してやったら、そんなの收拾つきませんよ。かえって代案を出して下さいよ、代案を、早く、10年以内に。きちっと皆が納得する。代案あってこそ反論になるわけで、いつもこういう話を聞いていると、市民が市長とかをいじめるようにかかってやっている。もちろん約束を履行していないという話はあるけれど、それはきちっとやってもらわなければならない。だけれども、そういうことをやっていくよりも、前向きに考えていった方が良いのではないですか。私は、ただ単に文句を言っているのではなくて、こういう例を東京都内で見てきましたよ。山手線内の中に一箇所だけあります。渋谷と恵比寿の間の線路際、周りは高層マンションです。私、見学してきました。クレームはありましたかと聞きましたら、ありましたということです。それは煙ですかと聞いたら、煙じゃありません、収集車の出入りの問題です。そうおっしゃっています。技術的には煙ですとかそういう問題は、解決できているはずですよ。東京都内でいったら世田谷もそうですし、みんな住宅地の中ですよ。その辺を考えたももっと前向きに考えられないかと、私はそう思います。それは、是非進めて頂きたい。私はそう思います。

市民 山王町内会の●●です。まず、今日は非常に集まりが悪い。これはやっぱり時間の設定とか場所の設定が問題あるなどと考えています。今さっきも意見が出ていましたけれど、要するに距離的に、山崎に基本的に決めたということですけど、そういうことになると、例えば、旧鎌倉の人なんか、全然もう私たちは関係ないやと集まって来ないわけですよ。やっぱり、距離の問題がありまして、離れている所の方は、もう自分事じゃなくなるわけです。他人事になっちゃうのですね。ですから、興味を持たないから平日の午後の7時頃、夜に集まれっていても、余程まじめな人でないと集まりませんよ。ごみの問題を真剣に考えている人しか集まらない。だから、ちょっとこれは宣伝に問題がある。ただ市の方としては、やはりパブリックコメントなど持っているいろんな人の意見を聞いた上で決めましたということにしないと形がつかないから、こういうことをあちこちでやるという形をとっていますけれど、現実には、先だって山崎近隣の町内会長が30名位集まりました。皆さん一人ひとり全部意見をいわせたのですよ。そしたら、ほとんど反対です。近隣の町内会長全部反対です。何故ですか。これはさっき植木の方ですか、もっと積極的に前向きに考えると、これはただ一箇所の問題でなくて、鎌倉市全体の問題だと。もちろんそうですよね。これは鎌倉市としては重大な問題です。これは高所から高い所から見て決めなきゃいけないことです。そのために用地部会というのが出来て4箇所に絞り込んだと、これは一応妥当なやり方だと思う。ところが、4

箇所まで絞り込んだけれども、もうそこから先は用地検討部会でやることでないから、市の方で決めるということで、市の方で決められたと山崎にね。これが決められた過程というのが、あまり透明でない。どうしてそうなっちゃったのか。まずこれが一点あります。もう一つは他にも意見が出ていますが、山崎、4箇所が一番狭いのですよ。8,000平米しかないのですよ。それでプラントを建てて、洗車場だとか、事務所とかいろんな付帯設備がありますね、倉庫だとかですね、それに駐車場も必要だし。ということになると8,000平米じゃ狭いのですよ、いかにも狭い。それで、この中に無理矢理そういうプラントを建てると、しかも浄化槽の真隣ですよ。この浄化槽の今の空いている所は、将来の浄化槽の拡張とか改造のために確保してきた土地なのですよ。ですから、浄化槽を将来、増改築をやるうたって場所がないわけなのです。ですから、今回のプラントを建てる、狭い所に無理やり立てるっていうことじゃなくて、浄化槽のプラントが建つ余地がない。で30年、40年後にはどっちにしろ、建てなきゃいけない、建て替えをね。そのスペースがない。全然ないですよ。今回候補地を検討しましたがけれども、ようやく、この4箇所に絞り込んだということで、鎌倉市は非常に狭隘な土地ですよ、山谷があって、ですから、余裕があれば本当は一から探してやらなきゃいけないけれど、深沢クリーンセンターなんていったら、余計場所がないですよ。だから、将来の展望が全くなくて、先のことはその時に考えればいいというのではなくて、30年、40年というのはすぐに経ってしまう。結局、このプラントだって10年かけて建てるのでしょ。ということ、30年後には稼働しなきゃいけないということでしょう。やっぱり、10年、15年前から検討するっていうことは、このプラントが建ちあがったらすぐ次のプラントを考えなきゃならないということ。そのことを全然考慮しないで、後のことは次の市長に任せるだとか、次の次だか知りませんが、将来の展望が全くないのにこういうプロジェクトを出せるというのは、鎌倉市全体の問題として非常に重要なミスジャッジをするのではないかと。これは100億かかるのでしょ。100億のプラントなんて、鎌倉市やったことないのですよ。バイオの時だって63億かかるって。市長は63億もかけて造るのはだめだっておっしゃってましたよね。そんな高いもの造るのかって。確かにそうだ。63億って大変ですよ。今回100億かかるのですよ。これだけのプロジェクトを無理矢理に山崎に造ってしまったら、これは今の国立競技場じゃないけれど、市民の負の資産を作ってしまうのではないかと。私はプラントの真隣に住んでいるわけじゃないけれど、市民として、市の財政が大変なところに100億かけて造るプラントをね、ちょっと甘いのでないか。とにかく、山崎の場合には敷地の真隣に何十軒も家が建っているのですよ。フェンスのすぐそばの所に。この人たちは、可哀想ですよ。今、確かにごみ処理場は技術的にレベルが相当高くなっているけれど、排気ガスどうのこうのっていう問題は一応クリアしているのですよ、臭いだとか。だけど、現実にはやはり完全にそうはいえない部分があるのですよ。やっぱり、フェンスひとつ隣に何十軒も家が建っているのですから、これを無視してプロジェクトを進めるのはちょっと難しいと思う。私は、率直に言って野村が良いと。野村ないしはJRの跡地が良いと。野村は、8,000平米の倍あるのですから。1万6,000平米あるのですから。森に囲まれて2段になっていますけれど、建物を壊したら十分建てるスペースがある。建て替えのスペースある。しかも森林に囲まれているから、今、言ったようにフェンスの隣に家があるわけじゃないのですよ。あそこはもう、10年以上、土地を野村からいただいて、ほっぽりばっなしになっているのでしょ。何も計画がないのですから。しかも、鎌倉市は金がないから箱物はやりませんと、造りませんとっているわけですよ、今後もやらないと。神奈川県もそうですけど、持っているだけで金がかかるのは造らないという方針です。だけど、空いているあれだけの立派な土地がありながら、何で山崎に持ってこなきゃいかんのかという理由をは

つきりしたい。それと市長がいつている山崎に決めた理由が、災害時のエネルギーの有効活用とおっしゃっている。だけど、災害時っていうのは東日本の災害みたいに震度7とか6という大きな地震があった時のことになりますよね。これだけの地震があったら、ごみプラントとして、いくら強靱な物を造っても潰れちゃう可能性があるわけですよ。隣の浄化槽も潰れちゃう可能性があるわけですよ。潰れたら今のエネルギーっていうことは発電するわけでしょ、ごみ発電でしょ。ごみ発電とエネルギーで温水が出るわけですよ。だから、お風呂とかなんとかって、有効利用できますよ。だけど、災害時にエネルギー有効活用って、これ、全然説明つかないでしょ。何なのですかこの資料。そんな理屈が付かないような理由で山崎に決めているのでしょ。これはおかしいじゃないか。これは、当然見直してもらいたい。率直に言って、山崎には反対します。それで、私は野村が一番良いと思っている。それが出来ないならJRの跡地。山崎に持ってくるのは全然説得力がない。理由がない。エネルギーの有効活用なんて全く理由がない。しかもこれだけの金を掛けて、このまま力で強引に通そうとしたら大変なことになりますよ。今、町内会長皆30人ぐらいが反対していますから。

市民 全体のスケジュールを見ていますと、焼却炉の寿命が発端になってこの問題提起になって、住民に対して、「あと何年焼却できます、その後やめます」と約束したとかしないとか、私、今泉台に40何年いましたけれど、そういうこと一切知りませんでした。町内の役員もやりましたけれど、別に今泉台は問題ない。のはずが、いや、何年経ったらやめますと。やめますから、逆に名越もやめますと行ったら行き場がないということで、タイムスケジュールが決まっていますか。私、廃棄物関係の仕事をしていますけれど、武蔵野方式っていうのですか？武蔵野市では、過去に住民と非常に熱心に議論して結局、東京のごみ戦争は、地元でやるしかない、さっき誰かいいましたけれど、ごみは燃やすしかないのです。私は、焼却技術を全部やりましたけど。40年経っても燃やす分は、多分頑張っただけであれば減らせます。減りますけれどゼロにはなりません。ですから、前市長が、バイオマス計画、夢みみたいな物語を出して燃やさなくていいのだと聞いた時、鎌倉市これ、大丈夫なのかと思った。実は、学会の中でも燃やさなくてもやれますよ、この規模ならやれます。そんなことはないはずだって皆でいっていました。今、説明があったと思うのですが、本来あるべきスケジュールできちんと議論していれば、やると決めるとやらなければ、スケジュールが変になってしまう。何が何でも、今年中に決めたいとかじゃないと思うのですよ。4箇所絞っている中で、どこが本当は良いのだろうか、皆さん納得いくまで議論を戦わせて、やっぱり、ここにしましたというところまでやらないと、多分どこに決めても無理だと思います。どこに決めても揉めないところはありません。皆さん納得してやらないと。一番重要なのは市長の考え方ですから、市長が決めたら絶対変えない。今度、山崎で20年経ったらやめますとか返しますと、いったとんにそれが条件になるのです。普通、誰かがいいましたけど、学会でも一つ焼却炉を造れば、次の焼却炉を、すぐにその場で検討し始めています。3回ぐらい順繰りに回って、住民の負担もあるから3箇所でグルグル回せば良いとかいうことをやっていく、そういう計画なのです、ゼロにはなりませんから。誰かがやんなきゃならない。そういう同意をしていますか、皆さん。しないで突っ走ると、皆さん、こういういろいろな議論になります。焼却炉も、私は知っていますが、迷惑施設になるようなガスは出ません。ただ、パッカー車のことは出るとは思いますけど。でも、あって欲しい物というものじゃない。これは同じです、誰でも同じです。それでも、議論は、もう一回尽くすということはないと。

市長 ありがとうございます。確かに、議論を尽くしていくということで、より納得をしていただくこ

とが本当に大事なことだということを経験しているところです。出来る限り、言葉だけじゃない、市民の皆さんの意見の反映ですとか、市民参画の実現はより丁寧にやっていきたいと思っています。今回も決して早急にこの計画を決めたということではなく、我々としなくても手順を踏ませていただいて、候補地を絞りながら決めてきたという手順をとって参りました。最終的には、私の方で判断させていただいたところでございますが、そういう意味では、より、決定の過程を皆さんに十分ご理解いただくには、説明をしっかりと尽くしていくことと思っておりますので、貴重なご意見として受け止めさせていただきます。

市民 時間がないのでちょっと一言だけ言わせていただきたいと思います。私は4年前に市民になったわけです。4年間の間にいつも困っているのは、近隣にマンションが建ち、アパートが建つ。私は一軒家に住んでいますが、そうすると、土地の人たちと一番トラブルになるのは何かというと、ごみの収集なのですね。ごみの集め場所がないのです。それで、実際に有料になっていきますよね。そうしたら、今度は有料袋に入っていないのは持っていかないということで、ごみの収集場所に腐ったものがわんさわんと、カラスは来るは、大変な状況なのですね。そのために、土地の人たち、いわば今まで住んでいた人たちが何とかしなくちゃいけないと、地主さんとか持ち主さんと、まあ、家主さんですね。皆さんと話をするのですけれど、家主さんは全て不動産屋に任せているわけなのですね。不動産屋は空いたらすぐ入れたい、自分の利益になるのですから。そうすると、ごみの問題なんていうのは、ほっぽり投げて、とにかく誰でも入れちゃうわけなのです。そうすると、忙しい方はごみをそのまま捨てていっちゃうのです。そうすると、土地にいる人たちは、ちゃんとそれを整理して入れていくわけですが、ごみ戦争が住んでいる場所でも起きているのです。これはなぜかという、今、先ほど、少ないと本当、少ないです。私のいた沖縄なのですが、沖縄でちょっとした問題が起こると100人ぐらいすぐに集まって来るのです。それから、説明する人が部長・課長じゃないですね。全てその課、いうなれば、その給料を貰っている職員が来て説明するのです。もちろん、偉い人が皆いてですね、補佐するのです。それを全部市民の人たちに対して、実際に行政で給料もらっている人たちが説明するわけです。ここに今、お話を聞きますと、課長・部長の名前しか出て来ない。あとは市長ですかね。市長は選挙がありますから、今ここに出て来るのでしょうか。部長・課長が来て説明しろといったって、私がこの4年いた間で、そのごみの戦争に部長・課長は一人も来ない。私の所の裏の山が、今、野村の話がありましたけれど、野村の土地だって、市役所からもう3年くらい前にかえってですね、死人も出た、けが人も出たという所に、私は、今住んでいるのですけれど、もう大変な思いしているのです。そのために、家の伐採をしたのです。そしたら、伐採がたくさん出るものだから、それを捨てるのに、沖縄の場合ですと、台風が来ますと、必ず市役所から皆動員で伐採を、木が倒れたとか、瓦が飛んだり、全部やって来てくれるのです。だけど、私のところで4年間住んでいるけれど、市の人たちが来たことはないですね。だから、私の方で伐採したやつを出すのです。何度か、センターへ電話をしてくれていうから電話したのです。そしたら、1立米に対して2,000円頂きますと言うのです。市の木を切って、我々が住むように段取りをつけるのに、何で2,000円を払わなきゃいけないのか。実際出て来るのは10立米くらい出て来るのですよ。それを1立米に対して2,000円出せと。とんでもない話なのですね。税金払っているわけですからね。それはちゃんとやってもらいたいと思うわけです。沖縄ではね、必ずそれはやります。しかも絶対にこちらの方から電話するとちょっと待って下さいと、こちらの方から電話しますと、こちらの電話賃を出さなくて済むのです。向こうから電話かかってくる。ところが、私の方で市役所の方へ電話したって、電話を待たされるのです。

ちょっと今、課長と相談します、係長と相談します。電話に出て来ないのです。10分も20分も電話がかかるのですね。やっと出てきた話がそれはだめですと。ここに電話して下さい。だから、あなたの方で予定を立てて、実際にこちらの方へ電話をしてくれないと私は電話代で破産しますという話をしたことがあるのですけど。そういう状態を、やっぱり、行政が、要は今日来られた部長、課長が自分の部下たちに市民に対してもう少しサービス精神を旺盛にしなさいということをお願いしたい。この前、どこかの社員の方たちが見学みたいに来られたのですかね、ちょっと就職の時期で。そしたら10人も20人も老人が窓口で皆待っているのですよ。それなのに、ちょっと待ってください、新しい新入社員の説明に回っているのです皆。老人たちは、10分も20分もそういう人たちを説明するのに待たなきゃいけない。これはちょっと行政の態度がおかしいのではないかと思うのですね。ここだけだったらそれは言えませんよ。だけど、私が転勤したところでは、もう本当に市民に対して行政の職員たちが真剣に対応してくれる。それを申し上げたい。それから、これだけの人間しか来ない、私はこれを持ってきて6時半に来ました。なぜかと言うと280名限定だと。早く行かないと座れないかもしれない。私は6時半から来ましたよ。しかもこれですよ、これ1枚。誰がこんなもの見るのだ。回覧板で見てね、こんなところに書いてあるのです。こんなとこまで見る人いませんよね。私は暇でしたらから見ましたよ。これはちょっとやっぱり、問題ですね。本当に少ないなと思ったのですよ、私も。これは何かというと、やはり行政の態度、これが問題なのです。こんなことを出してね、説明会をしろと、山崎の人たちはね、自分の所に来るのは嫌だとおっしゃるかもしれません。その前に、やっぱり行政が考えてもらわないといけません。以上。もう少し市長さん考えてみてください。

遠藤次長 今の補足をさせていただきます。今、おっしゃったご案内は、ごみ減量ニュースの一番裏面のところに載っていることだと思います。それを配布させていただきましたのと、市の広報8月1日号に今回のことは載せさせていただいております。それと、申し訳ありませんが、ご覧になれるかどうかわかりませんが、市のホームページでも掲載させていただいておりますが、こういう状況でもありますので、今後、広報の手法については、工夫していきたいと思っております。ありがとうございました。

市民 もうあまり時間が無いので、簡単に申し上げます。私は、6月22日締め切りのパブリックコメントで申し上げていますので、それに沿って申し上げたい。ごみは、今、いろいろ聞いていますと、ごみというのは、ごみじゃないのですよ。資源なのです。だから資源と位置づけて分別をしっかりとするというのは、ごみの世界では昔からそんなこと言っているのですよ。だけど、私は鎌倉に来て、何を考えているのかなという感じはします。ごみは資源、と位置づけて分別を徹底するということですね。それから全市民に関わる問題ですよ、これ。皆さん、今話されましたけれど、子どもも大人も全部関わりがあるのです。私は違うよ、あなたはそうでしょ、そんな問題じゃないのです。全部が関わっているのです、このごみの問題っていうのは。それから、互いにリスクを負担するという精神が無かったらだめなのです。山崎に今、一箇所に集中するというお話ですけれども、そういうことでは、皆さんね、もう不満だらけですよ。今、聞いていますと、本当におっしゃる通りなのです。たかが62トンじゃないですか。62トン、大した量じゃないですよ。100トン、200トン、300トンっていうのなら話はわかります。だけど62トンというぐらいじゃ、大した話じゃないのですよ。それと、新しい技術として、今、市役所で考えたのはバグフィルターですが、あれはガラスなのです。ガラスというのは、ものすごくごみを焼くのに空気を送り込むわけですよ。だから、いろいろな物質も含まれるわけですよ。それを取り除くためにいろいろな設備がいるわけですよ。それから電

力はね、発電をすると、これは当たり前な話なのです。だけど、併せてやりますと非常に燃料、エネルギーどうでもいいのだけど、そのために燃料をものすごく使うのです。使わないというのだったら、皆さんおっしゃってください。それから、私は山崎一極集中じゃなくて分散しなさいと申し上げます。今までは2箇所ありましたね。今度は1箇所になるわけですね。1箇所になったらその地域の人に、ものすごく負担を課すわけです。永久にこの地域の人は悩まされるのですよ。だから、山崎の周辺の人だけに負担をかけるというのは非常に不公平だと思う。それから、鎌倉の場合は観光地ですから、道路が渋滞すると困るのですよ。これからお客さんがもっと増えますから、いつでも、すいすいと走れるような状態にしないと生きられないです。それを一極集中したら、ものすごく車がどんどん増えるわけですよ。コストの中でごみを集める費用は、今、平均して7万円なのです。それだけ毎日ごみを集めるのに費用が掛かるわけです。住民が分別と人件費とごみを集める費用ですね、7万円かかっているのですよ。そういう費用は、トータルコストで物事考えていかないとだめだと思う。今まではそうじゃなかったと思う。それから一番大事なことは、これからますます高齢化時代になるから、全ての人が年寄りになるわけです。昔からいうじゃないですか、もっと老人を大事にしなさい。何でそんなことなのかと言うと、老人はいろいろな分野でいろんな仕事をして、経験してきたから知恵があるのです。ところが、最近、非常に老人が寂しい思いをしている。昔、終戦前は大家族だった。大家族の中で生活していたから多少のことは辛抱しなきゃいかんこともありました。だけど今は核家族になっていますから、最後に申し上げますけど、ごみの問題は環境部の施設の関係だけで、そういう一部の人だけで考える問題じゃない。今、申し上げたようにもっと広域で、縦割りじゃなくて、もっと横断的に物事を考えて行かないといけないというふうに思います。